

大和川付け替え ー大和川治水記念公園ー

近鉄大阪線「安堂」駅を降りると、ぶどう狩りの案内が目立つ。このぶどうは河内ワインにもなる。旧国道170号線を南に歩くと、国道25号線との交差点を挟んで幅200mもある大和川が見える。奈良県に発したこの流れは、大阪府柏原市との境の亀の瀬渓谷をくぐりぬけ、南河内からの石川と合流して、西に向かい藤井寺、八尾、松原、堺、大阪市を経て大阪湾に注いでいる。



しかし、この西に向かう大和川の流れは江戸時代にはなかった。かつて大阪のほとんどは海だったが、大和川などが土砂を運びこんで河内平野ができた。大和川は、その平野を、久宝寺川や玉櫛川、平野川などとなって淀川に注いでいたため、常に河内平野は洪水の危険が付きまとっていた。江戸時代になっても十数回もの洪水に見舞われ、多くの家が流されて死者も出た。

この洪水から生活を守るために、1656年(明暦2年)ごろから、河内郡、讃良、若江、茨田郡の農民が、大和川を付け替えて西に向けて大阪湾に流す案を作り、何度も幕府に嘆願した。特に今米村の庄屋である中甚兵衛は、幾度もの困難を乗り越えながらも付け替え運動の中心を担った。これに対して付け替え先となる村々からも付け替え案への反対が出された。

幕府の検分(現地調査)は、1660年(万治3年)から1703年(元禄16年)まで5回を数えた。淀川河口などの改修やしゅんせつ工事がなされたため、4回目の検分では付け替え案が廃止になったが、河床には土

砂がたい積し、周りの田畑より3mも高い天井川になってしまった。その後毎年のように起こる洪水を受けて、5回目の検分の後、ついに幕府は付け替えを決定した。この決定を受けて付け替え反対の村々は、代替地を嘆願することになったのである。このとき最初の嘆願から実に50年を数えていた。

この大河川の流れを変えるという大改修工事は、翌年から8か月というスピードで行われ、中甚兵衛は工事の御用を命じられたのであった。

この工事によって河内平野の洪水は治まり、多くの新田が開発された。そこでは綿花が栽培され、河内木綿の産地にもなったのである。しかし、付け替えられて整備された大和川では、代替地への移転という問題に加え、特に南側において洪水の被害が起こるようになった。そのために川のバイパスづくりなど、今も治水対策が続けられている。大きな川の流れという大自然に対して、自らの生活や命を守るという権利を実現するためには、常に対立や課題を越えていく必要があるのだろう。

付け替えの起点となったところは築留と呼ばれ、今この交差点の角には、「大和川治水記念公園」があって、「大和川付け替え記念碑」や「中甚兵衛翁像」などがある。また築留にある大和川から長瀬川と玉櫛川に取水する樋はアーチ状のレンガ積みで、文化庁の登録有形文化財になっている。



友達

交野市 中学一年生(当時)

谷

あきこ

私はあるクラスの一人の女の子。いつも一人でいる。なんでもいつも一人なのかというと、昔、私は人をいじめていた事があった。そのころの私は友達なんてどうでもいいと思っていた。

そんなある日とつぜん、仲のよかった友達に無視をされた。「なんで?」と思いながらも、別に気にしなかった。でも、やっぱりおかしいから、私は、何かされる前に自分からみんなから離れたんだ。

その日から私は一人になったんだ。どんな時も…。一人ぼっちだった…。つらくて、かなしかった。そうして、いつものように私は一人でいた。だけど何か、自分の名前を呼ばれたような気がした。

少しなつかしい声…。ふり返ると前まで仲のよかった一人の女の子だったんだ。私はただ嬉しくて…。目から涙がこぼれ落ちたんだ。

そして、私は、これから友達を大切にすると誓ったんだ。もう絶対に傷つけないと…。

2009年度(平成21年)啓人権啓発詩・読書感想文募集事業
大阪府大阪府教育委員会・愛ネット大阪の入選作品より

2010年(平成22年)10月発行

この情報誌は7,000部作成し、1部あたりの単価は97円です。

発行/大阪府府民文化人権室

編集/財団法人大阪府人権協会

〒540-8570 大阪市中央区大手前2丁目
TEL.06-6944-6189 FAX.06-6944-6616
http://www.pref.osaka.jp/jinken/

〒552-0001 大阪市港区波除4-1-37 HRCビル8階
TEL.06-6581-8613 FAX.06-6581-8614
http://www.jinken-osaka.jp